

第39号  
2018年3月1日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kshinsei-j.org  
○振替口座  
郵便振替01100-8-18680



# （児童養護施設 神戸真生塾） クリスマス祝会

本年度も、イエス・キリストのご誕生をお祝いする祝会に、沢山のお客様がお越し下さり共にお祝いできたことに感謝しております。

毎年この季節になると、「聖誕劇の役なにしようかな?」「いつから練習するん?」と子どもたちから、クリスマス祝会を楽しみにしている声がたくさん挙がり始めます。配役が決まってからは、学校や習い事と両立してこの日の為に一生懸命練習を重ねてきました。

今年、あいにく直前に体調不良の児童が出てしまい配役が変わったり、乳児院でも感染症の流行により急遽祝会に参加出来なくなったり、とハプニング続きで慌ただしく本番を迎えました。しかし、子どもたちは落ち着いており、しっかりと自分の役を演じ切り、立派な良い劇ができたと思います。緊張しながらも、練習で注意された点や何度もやり直した所を一人一人が意識している事が伝わり、とても嬉しく思ったと同時に子どもたちの一体になって演じようという気持ちが見え誇らしく思いました。



幼児の出し物では、クリスマスステーマに、パンダさんが自分のプレゼントを探しに行く、というストーリーをアレンジして披露してくれました。各々で書いたサンタさんの絵を首から下げ、大きな声で台詞を言う姿がとても可愛らしく、会場は和やかな雰囲気になりました。長い台詞でもしっかり覚えており堂々としている姿に感動し、涙を誘われました。

中学生も昨年に引き続き、出し物をしてくれました。今年、受験を控えている中学生が多く、「したいけど勉強や塾があるから練習出来ないし…」と複雑な気持ちを抱える児童もいま

た。なかなか人数が集まらなかった為、したい出し物と人数が比例せず、長い間頭を抱えていました。しかし、トーンチャイムをする事が決まってからは、職員も一緒に混ざり部活を終えてからや休日の空いている時間を上手く利用して練習に励み、「ここはもっとこうした方が良い」等意見を出し合いながら取り組んでいました。

その甲斐あって、当日は素敵な曲を披露してくれました。静かな会場に鳴り響くトーンチャイムの音色にうっとりしてしまいました。

最後の全員合唱、「にじ」。練習前から子どもたち、特に小学生は「学校で歌った事がある!」と馴染みの曲であったようで、手話をしながら口ずさむ児童も。小学生がリードして歌ってくれたので上達までが早く、楽しんで練習出来ました。

そしてクライマックス、今年ANAクラウンプラザホテル神戸の方より「子どもたちが見たこともない大きなケーキを作って見せてあげたい」「サンタ役として登場して子どもたちを喜ばせたい」とのご依頼を頂き、一緒にお祝いして下さる事になりました。当日、ウエディングケーキのような大きなケーキを作って下さり、ニュージールランド出身のインターン・イーカーズ総支配人がサン

タ役として参加して下さいました。子どもたちは見たこともない大きさのケーキにとっても驚いており、興奮していました。総支配人の方がとても背が高く体格の良い方であった為、サンタのサプライズ登場では「え」と絶句し、あまりの迫力に固まってしまいう子どもや「本物や!すごい!」と感動している子どももいました。しかし、質問タイムになると幼児から高校生まで積極的に手を挙げて、サンタさんとのコミュニケーションを楽しんでいました。

最後になりましたが、教員合唱団の方々、今年もご参加頂きありがとうございました。来年度も皆様と共に祝いし、楽しいひと時を過ごせます事をお祈りしております。



# 退所することも達から

山口 祐人

この作文を書くということは十八歳を迎え、神戸真生塾を退所するというわけですが、何事でも長く続いたことが終わるといのは非常に感慨深いですね。大体は真生塾で三食摂るので、真生塾のご飯を僕は一万食以上食べたということですね。考えるとこれは凄いなあと感じます。「○×△□が、全然美味しくない。いや、寧ろ不味い。」とか何とか言って、文句を言いがら食べたご飯も、もう食べられなくなるのかと思うと少し寂しいですね。

また、真生塾というところは、大人との付き合いが必要不可欠ですね。僕は性格にクセがあるが故に、些細なことで衝突することが多々ありました。その点は歳を重ねるにつれて、段々と改善されましたが、そういう意味では僕も成長したということですね。僕は十八年ぐらい真生塾にいるわけですが、たくさん人間との出会いと別れを経験

しました。今思うと「嗚呼、そういうえぼそんな人もおったな」と回想しています。そう考えると、よく自分はそんな長いこといたな、と思います。ここで言う「出会いと別れ」というのは、子どものみならず、大人も然りです。数多の人間との出会いと別れを経験した僕はシンプルに良かったな、と思います。

こういう施設に居るわけか、度々施設に居なかった時の自分を妄想しますね。仮にそっち方向の人生を歩んでいたとしてもそれはそれで良かったかもしれない。が、その場合は今まで生きてきた人生を歩めなくなるのかと思えば、秤にかけられない気がしますね。文章を長く書くに変な方向に流れがちなので、簡潔に言うとうお世話になりました。ありがとうございました。今後ともよろしく願います。

宗 太一

「これが嘘やったらええのにな」という会話を姉としたことを鮮明に覚えています。小学五年生から六年生になる間のエイプリルフール、この日から僕の施設生活は始まりました。

今思うと7年間があつという間でした。小学校でたくさん友達を作り、中学校で少しヤンチャをして、高校では部活を頑張つて、普通の青春を謳歌していました。

でも、辛い事だつてたくさんありました。死んだはずの人が生きていたり、生きているはずの人が死んだり、絶対的に頼れる大人がみつけれない、施設に入っている劣等感、色んな苦痛を味わいました。でも、今考えると、全ては自分を強くしてくれました。良い事も悪い事も、全部自分の糧になっていきます。こんな過去でも良かった！と心の底から思います。これからどんなことがあつても負ける気がしません。そう思わせてくれたのは、色んな人との出会いがあつて、助けてくれたおかげです。助けるというのは大袈裟かも知れませんが、何かと自分は救われてきました。そのおかげ

げもあつて僕は夢を持っていきます。それは、「世界中の子ども達を幸せにすること」です。漠然とし過ぎていますが、僕は本気で。

自分の人生、悔いの無いようしっかり生き抜いていきたいです。これまで出会った全ての人を行った場所、掴んだチャンス、全て忘れません。そして、ありがとうございました。

茂森 愛里

私は神戸真生塾で二年間お世話になりました。クリスマス会やおもちつき大会などの行事で小さな子ども達と関わる機会があり、小さな子ども達は可愛くて元気で一緒にいてすごく楽しかったのを覚えています。

毎日朝早くから学校のある日は、美味しいお弁当を作ってくれた厨房のお姉さん方にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。お部屋のお兄さん・お姉さんが方には、たくさん相談に乗ってもらいました。いつも朝早くに起きて私たちのごはんを用意してくれたり、ちよつとしたことでも気にかけ



てもらいました。何気ない話から真剣な話まで相談に乗ってくれたり、お姉さん達のアドバイスや意見などに私はたくさん助けられました。そのおかげで、私はダンスやアルバイト、学校生活が快適に過ごせました。学校生活では毎日友達や担任の先生方と笑つて過ごすことができました。アルバイト先では幅広い年齢の方々と接することが多く、色んなことを話しながら楽しくアルバイトができた、一緒に食事をしたりする機会もあつて私にとってすごく恵まれた環境でした。

ダンスでは一緒にレッスンを受講している生徒やインストラクターの方々・スタッフなど、大勢の人たちと楽しく過ごすことができました。どこに行つても友達や知人が周りにいて、そのことが私にとってすごく心強くて、こんなにたくさんの人々と関わる事ができてとても幸せです。尊敬できる方々が私の中にはたくさんいます。私も周りにいるたくさんの方々が私といることでもっと「楽しい」と思つてくれたり、笑顔にしてあげられるよう、これからも大切にしていきたいと思つています。神戸真生塾に来てから、私は周りの人たちにすごく支えられて



生活していると強く実感しました。今まで支えて頂いた方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



### 太田 蘭

未来の自分と向き合う時間。私はその時間を避けて生きてきました。

十六歳の七月。私はここ「神戸真生塾」にやってきました。お部屋のみんなとはすぐにうちとけ、この一年半の生活で喧嘩をすることはありませんでした。そんな穏やかで柔らかな空間を私は幸せだと感じ、日々を過ごすことができました。しかし今とはとても快適で私に「ピタリと合っている」、その先の未来はどうなっていくのか。私は不安が募っていました。

「遺伝子工学について学びたい。」その気持ちを、私の真意としてしっかりと伝えるまでに時間がかかりました。私は夢を否定されて生きていくことが当たり前前だったので、言って無駄だろうな」という諦めが私の口を閉ざしました。

しかし神戸真生塾のお兄さん

ん・お姉さんは私の夢を否定せず、一から理解して、私の背中を押して応援してくださいました。無事に進路も決定し、感謝の気持ちで今は胸がいっぱいです。

新しい環境に踏み出すことは、簡単なことではありません。時間やお金を費やす必要があったり、大勢の人に迷惑を掛けてしまったり、想像以上に手間を必要とします。それらを経て私に還ってくる財産は何物にも代え難く、これからの自分を創っていくのに必要になると私は信じています。もし何かやりたいことや目指すことがあれば、一度口に出してみてください。きっと誰かが、その声をひろってくれると思います。

春からは東京で遺伝子工学を学びます。今までの自分の頑張り水を流さないように、毎日新しい光や匂いや色に触れ、私のモノにしていききたいと心から思っています。

### 丸 優樹



私は、神戸真生塾で三歳からの十五年間を過ごしてきました。この十五年間は良い思い出もあ

れば、嫌な思い出も数多くありました。生活の中で些細な事で反抗したり、逆らうことも多く、何度も職員と対立するたびに赤の他人だということを理由に必要以上に職員を遠ざけることも多かったです。この経験がなければ今の私はなかったように思います。これを機に私自身が大きく成長し、変わることが出来たのも神戸真生塾で暮らした日々の積み重ねかもしれない。

楽しい思い出も多く、毎日の何気ない日常生活はもちろん、部屋のみんなで行く外出、同じ部屋の子も達と一緒に映画を観たりゲームをしたりしたこと、他にも普通の家庭では体験できないことをさせてもらったりなど、すごく充実した日々でたくさん良い思い出を作ることが出来ました。

ここまで部屋の担当職員の方にはたくさん相談に乗ってもらい、背中を押してもらったことも多くありました。悩み相談など応援していただいたこと、これらの支えがあったからこそ、私は何事も諦めず最後までやり遂げることが出来たのかもしれない。お世話になった職員の方々には謝罪と共に感謝しかありません。

### 馬場 秋久



神戸真生塾で生活してきた時間は、私にとってとても大切な毎日の一つとなり、離れるのが寂しいぐらいです。けれども大学では自分の目標を達成できるよ、最後まで諦めず挑戦していきたいと思えます。この十五年間、本当に有難う御座いました。

僕は、神戸真生塾で三年半ぐらい過ごしました。神戸真生塾にいたのは短いですが、自分が小さい頃から関係がありました。入所前から、困ったときは助けられたことを今でも覚えています。

僕が入所してからも、困ったことがあったときは助けてくれて助言をしてもらえたこともありました。特に、僕が暴れてしまいがちなときに一緒に落ち着く方法を考えられました。そして、僕がお姉さんに甘えたときは、ちょっとしただけ厳しいですが優しくしてくれました。ときは、ちょっとしただけ厳しいですが優しくしてくれました。ときは、ちょっとしただけ厳しいですが優しくしてくれました。ときは、ちょっとしただけ厳しいですが優しくしてくれました。

のお兄さんは人数が少ないですが、自分を含めた男子のことをわかってくれるところがうれしかったのです。ときには、意見が合わないこともありましたが、それも僕たちのことをわかっていてくれることであると思っています。そして、僕はお姉さんやお兄さんにいろいろと心配をかけたり、迷惑をかけたことと大変なことをして、悪いことをしてしまっただけだと思っています。でも、お姉さんやお兄さんたちが温かく見守ってくれたおかげで、大人に成長したと思います。そして、この神戸真生塾『僕の第二のふるさと』に迷惑をかけることのない、立派な社会の一員としてこれからの人生を歩んでいきたいです。

最後になりましたが、これまで自分を支えてくれたお姉さんやお兄さん、そして富川施設長と他の関係機関のみなさま、僕が困ったときに助けてくださったことを本当に感謝しています。これからもがんばっていきます。本当にありがとうございました。

# 《乳児院 真生乳児院》

## クリスマス祝会

ひまわりクラス保育士 福本真弓



今年も、保護者や関係機関の方々とともにクリスマス祝会をとり行うことができました。はじめは、年長児3名による「キャンドルサービス」です。キャンドルを持つ手が緊張している子どもたち、ロウソクに火が付くと皆笑顔になり、とてもきれいな明かりが灯りました。続いてS君による「お祈り」です。たくさんのお客さんの前で恥ずかしそうにしていました。

が、立派にお祈りすることができました。

「ツリーを飾ろう」では、子どもたちが保護者の方と一緒にツリーの飾り付けを行いました。飾りを手に持ち、どこにつけようか迷ったりお友達とどれだけ沢山飾り付けられるか競争したりしながら、楽しく一生懸命飾りつけることができました。最後に倒れてしまうというハプニングもありましたが、すぐに立て直し、みんなで飾り付けをしたツリーはともきれいでした。最後はサンタさんの登場です。手をたたくて喜ぶ子どもや怖く泣いてしまう子どもと反応は様々でしたが、プレゼントを受け取った子ども達は皆大喜びでした。

日々成長する子どもたち。これからも保護者の方とともに、その成長を見守っていききたいと思えます。

## クリスマス食事会



先日、乳児院の子ども達数名が養護のクリスマス食事会に呼ばれ交流の時間を持たせてもらいました。初めはいつもと違う雰囲気少し戸惑いも見られましたが、ごちそうが並んだテーブルを囲み、お兄ちゃんお姉ちゃん達と楽しいひと時を過ごしました。

「ポテトだーいすきー」「チキンおかわりー」と子ども達も好きなメニューに喜んでいました。食事の後も戦いごっこやゲームに混ぜてもらい嬉しそうにしていました。次はお兄ちゃんお姉ちゃんを招待しようね。

真生乳児院

ちゅうりつぷクラス保育士 山本 紗恵子

今年もクリスマスをお祝いする為にお食事会が開かれました。普段と違うメンバーとの食事や会話が、お祝いムードと子ども達のわくわくさをさらに盛り上げていました。毎年恒例の行事

ではありますが、年によってメニューも変わり毎回、新鮮な気持ちで、子ども達も職員も食事を楽しんでいきます。最後になりましたがたくさんの美味しいケーキやジュースなどを寄贈して下さいました。ありがとうございます。

児童養護施設神戸真生塾

児童指導員 山本 惇矢



どきどきです。養護施設の栄養士さんの手作りの豪華な食事をみて「わあ、すごい」と歓声をあげました。いつもはちょっと苦手なケーキもこの日はペロリと全部食べたのにはびっくり、お腹いっぱいになったね。中学生のお姉ちゃんたちのカードゲームに「なにしてるの?」と尋ねても優しく応えてくれ嬉しくてテンションがあがり、大はしゃぎ。大きなお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に遊ぶことができとても楽しかったようです。「また、養護さんでご飯食べたーい!!」と次回に期待をしています。

真生乳児院

主任保育士

藤井 寿子



ありがとうございました

寄付並びに児童招待の芳名

敬称略・五十音順  
(二〇一七年十月一日〜二〇一八年一月三十一日)

寄付金

- 神戸教会 いずみ幼稚園
- 藤井秀彦
- 高尾華工房
- 斎藤仁美
- 大江愼一
- 安西真由美
- 本城智子
- 林りえ
- 高森紀子
- 戸塚昌子
- 藤井祥子
- 國府良
- 富川和彦
- 小沢医院 南和光
- 大阪キリスト教学院
- 海星女子学院
- 廣畑康雄
- 福島弘子
- 関西学院高等部 学友会
- 上杉徹
- 保育園 ごと同
- 神戸女子学院 子ども会
- 日本キリスト教西宮中央教会
- 東洋英和女学院
- 中高部 母の会

- 宗教委員会住元義則 淳子
- 渡邊智明
- 李福美
- 清水美香
- 數田紀久子
- 齋藤稔
- 稲垣宜子
- 岩村良子
- 沖野世津子
- 菅根信彦
- 綿谷栄子
- 官永公子
- 神戸教員合唱団
- 勝木光江
- 白坂精子
- 難波美智子
- 藤井孝子
- 中村悦子
- 神戸市立 山の手小学校
- 神戸ポートワイズメンズクラブ
- 島谷直美
- 若林孝典
- 松本緑
- (有)カワタリ電設
- 瀬沼民子
- 濱田栄二 理恵
- 濱啓子

寄付物品

- あゆみ幼稚園 園長井塚栄子
- 上西幸之助
- 大社貴子
- 日本聾話学校
- 玉川聖学院
- 頌栄幼稚園
- 小幡信子
- 民谷清
- 学校法人 名古屋学院
- 日本基督教団 神戸多聞教会
- 神戸教会付属石井幼稚園
- 神戸昇天教会
- 森山
- 広瀬俊道
- こちび商店
- 松本美鈴
- P & G (株)
- (株)三宝
- 全国シヤンメリー共同組合
- 光岡丈一
- 堀川愛生園
- 神戸教会
- 神戸昇天教会
- 神戸市交通局
- 水野和美
- 福岡武彦
- 島田千里
- 内田三枝
- 日本鏡餅組合
- (株)USJ

- (株)ユチュアンナ
- 親和女子大学
- 阿波圭子
- 上野尚彦
- 神果神戸青果
- 門司一徹
- (株)フェリシモ
- 植田奈緒美
- フェールドエス(株)
- K-3
- まほろば
- 平野正敏
- マークラー神戸
- フィリップモリスジャパン
- UAゼンセン共進舎 労働組合
- (株)神戸スイートポテト
- ANAクラウンプラザホテル神戸
- ワールドメイト
- 中筋達哉
- 大阪ガス
- 川本真美
- 楽天
- ユーハイム
- (株)みの屋
- ファイブイントラロジステイクス(株)
- 大社貴子
- 吉田真弓
- 金岡恵
- 星野麻紀
- 杉本瞳
- 芝地義則
- 日本ベビーフード(株)
- 藤間勘夕美
- 岡本佳子

子どものつばやき

- 伊吹薫
- 魚平
- 大池真由美
- 丸庄
- (株)イーぼる

★クリスマスの日。「お姉ちゃんにもサンタさん来た？」と聞かれたので「来なかったな」と言ったら、「いつも子ども怒っている子になかったからやわ」だって。

(Sくん・6歳)

★幼稚園でもちつきをしてくれた幼児さんの話しに、「私も幼稚園のとき、いちばん楽しかったのは『おもちゃべっちゃん』やった!!!」おもちゃべっちゃんね。

(Rちゃん・7歳)

★劇団四季の観劇に行ったとき、「お姉ちゃん！オペラ座の大臣のポストがロビーにあったで！」オペラ座の怪人のポストだね。見つけたの嬉しくて興奮して言い間違えたね。

(Kちゃん・10歳)



《保育所  
真生きりぎりす保育園》

こども園移行に向けて

園長 上杉 徹

今年度は十六（平成二十八）年の児童福祉法の改定を受け、再度「子どもの最善の利益を守ることに」として「子どもが意見を表明する権利を守ることに。」すなわち、我々が子どもたちの代弁者となる働きを担うことを再認識する一年となりました。

そして、次年度は保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、四月より施行されます。併せて当園もこの四月より幼保連携型認定こども園へ移行します。就学前の子どもたちへの教育が目まぐるしい中、0歳児から始まる園生活の中で、個の成長と集団としての活動の充実を図り、子どもたちがゆったりと園で過ごし、子どもたちの興味・関心を高め、認めていくことを見守っていきます。一号認定の子どもの受け入れと今まで以上に地域の子育て応援事業の充実が求められる中、子どもと共に歩み続ける当法人の運営するロータリー子どもの家の働きと同様に地域に根差した取り組みを続けていきたいと思えます。

子どもの様子  
〜2月の園だよりから〜

【めろんぐみ（五歳児）  
りんごぐみ（四歳児）】

十二月は引き続き、聖誕劇、クリスマス会に向けての活動を中心に行っていました。十一月に配役発表を行ってからは、更に使命感を持って練習に対して意欲的に参加することができていました。しかし本格的にセリフ合わせや動きなどが加わってくると、集中力が続ききらなかつたり、自分の出番以外の所で私語をしまつたりということがあり、担任から、「それでいいのか」と言われ、子どもたちと考える時間を持つことがありました。その日からは少しずつ変わりはじめ、「待機している子どもも含め」みんなが気持ちを持って、いい劇にする！という意識を持つことが出来ていたように思えます。練習で厳しいことを言われながらも乗り越えてきただけあって、本番では2階席にまで人がたくさんいるような状況でも、自信を持って、大きな声で、堂々と演技することができていたように思えます。2ヵ月の大変な練習を乗り越え、一人ひとりが成長し、クラスとしても一段と結束を深めることができました。

祝会の歌は、「翼をください」「サンタが町にやってくる」の2曲を歌いまし

た。「翼をください」はこの年齢の子どもが歌うには、音が高く（高いファ）、歌詞を理解しメリハリをつけて歌い表現するというのが難しい曲であり、歌いはじめた頃はともしんどそうにしていたが、曲を変更しようかとも考えていたのですが、子どもたちが「翼をください」が好き！「歌いたい！」と言ってくれた為続行することになりました。毎日の発声練習によって、高い音もすっかになり音程を意識して歌うことができるようになってきました。一方、「サンタが町にやってくる」の歌は、「翼をください」のしつとりとした雰囲気そのまま引き継いで歌って、楽しそうに歌うことが難しい様子だったので振り付けを付けることにしました。振り付けは子どもたちが自分たちで話し合って全て決めることになりました。楽しく歌うことができるようになり、どちらの曲も本番ではとても上手に歌うことができていて、前で聞いていた私も子どもたちの成長を感じとても感動しました。

四・五歳児担任 岡本拓馬

【ももぐみ（一歳児）  
さくらんぼぐみ（0歳児）】

12月といえば、クリスマス!!保育室のクリスマス飾りつけに目を向けて喜んで、制作あそびでもクリスマスにちなんだ制作をクレパスやのりを使って取り組んでいます。特に、「のり貼り」は最近、行い始めた活動のひとつです。保

育士にどの指にのりをつけるか、量はどのくらいつけたらいいか、また、ぬり込み方をじっくり考えてもらいながら行いました。くつついたことに驚いたり、楽しんだりしながら制作してくれたらいいなど思っています。そして、クリスマス会でも行った手あそびや楽器も楽しんでくれました。さくらんぼぐみはリズムを感じて手をたたいたり身体を動かす姿を見せてくれていました。ももぐみの子どもたちは保育士の動きを真似ながら、覚えていく姿もありました。クリスマス会当日はいつもと違う雰囲気、ドキドキやワクワクの気持ちもあったと思います。来ていたみんなが舞台上上がったことを嬉しく思います。

0・一歳児担任 廣瀬加恵  
青木梨花  
岡村孝美



子ども家庭支援センターロータリー子どもの家

親子で笑顔になれる子育て

臨床心理士 谷 知純

子育てとは、子どもがひとり立ちするまで続いていくものです。その長い間の中では、喜びや楽しさを感じることもある反面、難しさを感じることもあるでしょう。子どもが話を聞いてくれない、何度注意しても同じことを繰り返す、どのように話せば分かってくれるのか分からない、イライラした気持ちのまま子どもに怒ってしまい、さらに話を聞いてくれなくなる...といった悩みを抱え、子育てへの自信を無くしそうになる経験をしたことのある方も少なくないのではないのでしょうか。当センターでは、日々の子育てにおける悩みを解消するため、「笑顔で子育て講座」(全6回)を行っています。



幼児期から学童期の子どもを持つ親を対象とした講座で、5名〜8名程の小人数制で、子どもに伝わりやすい声掛けの仕方や褒め方の工夫、親自身が落ち着くための方法などを学びます。講師の講義やビデオ教材を通し

て学ぶだけでなく、実際の子育てを想定したロールプレイや自宅での実践と振り返りを行うことで、内容を深く理解できる講座となっています。

今年度は5期生6名が、平成29年9月から平成30年1月までの全6回の講座を修了しました。子育てのスキルだけでなく、悩んでいるのは自分一人だけではないということに気づき、助け合える仲間を得ることができたのではないのでしょうか。

講座修了後も、子育てを続けていく受講生の悩みや気持ちに寄り添い、サポートできるようにフォロワーアップとして継続的に同窓会を開催していきます。

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家では、子育てに寄り添うことを目指して、今後も様々な講座やプログラムを開催していきたいと思えます。



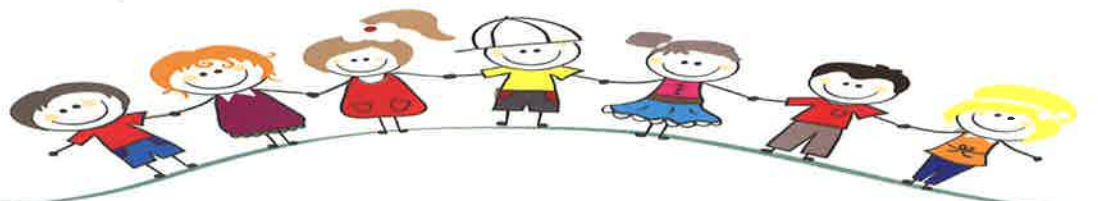
今年度より神戸真生塾に採用となり、「自立援助ホーム子供の家」に配属されました。

「自立援助ホームとは何か」社会人一年目の春、新しい出会いにワクワクしていました。

女子担当には女性職員しかおらず、10代の子どもに「私より年下に見える」と言われ、「これは困った、どうしよう」との気持ちでスタートしましたが、職員の皆様に快く迎え入れていただき、自然と子どもたちの中に入って、会話を楽しむ日々が送れるようになりました。



「自立援助ホーム子供の家」は、限られたごくわずかな時間の中で、様々な事情を抱えた子どもたちと、その子どもたちに全力で向き合っていく職員が、共に成長できる素敵なホームだと思えます。





## 子育てホットライン(相談専用)

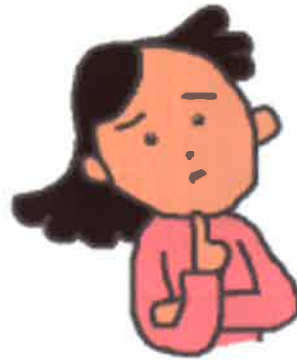
TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomonoie.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomonoie>



子育てに困ったら  
先ず電話相談!

## 神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター  
ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未(真生きらきら保育園 主任保育士)
- 網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
- 苦情解決責任者 富川 和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子(乳児院 真生乳児院 院長)
- 上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長)
- 第三者委員 森光 規之 (当法人 監事)
- 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 2017年10月～2018年1月末 5件

## 編集後記

今年は例年よりも厳しい寒さにまわれ春をいつにも増して待ち遠しいこの頃です。乳児院の院庭に植えられているしだれ梅の木がつぼみを付け始めました。皆様のお手元はこの広報誌「愛」が届けられます頃には咲き始め、桜やチューリップと春が少しづつ訪れる事を思うと楽しみです。

今号は養護施設、乳児院のクリスマス祝会を始め、児童養護施設を退所する子ども達一人ひとりからの言葉や保育園、ロータリー子どもの家、自立援助ホームの記事と読み応えのあるものになっています。中でも児童養護施設を退所する子ども達の記事は葛藤や楽しい思い出、今だから素直に伝えられることが伝わってくる記事となっております。

最後になりましたが、第39号発刊にあたりまして、ご協力頂いたすべての皆様方にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

(中山)